羽ばたくブロイラー新鶏種
コップ500Mx ②

「コップ500Mxブロイラーは増体性が高く、四十七日齢で三㌔、飼料要求率一・八の能力を持っている」（大角岩雄㈱松阪ファーム社長）と言われる。日新殖産㈱（宍戸勝善社長―本社・福島県伊達市梁川町東塩野川二五―一）を訪れ、生産現場からみたコップ500Mxブロイラーの評価を取材した。

日新殖産は、月産約三十～三十五万羽のブロイラーと約六万羽の伊達鶏（銘柄鶏）を生産・処理している。四十農場のうち鶏舎九〇％、開放鶏舎一〇％。鶏舎内設備は換気扇、給水器（ラウンドドリンカー）、ガスブルーダー、給餌ラインなど。

飼料は、え付け用（〇～五日齢）はマッシュ（紙袋）でME三千五十㌔㌍、CP二二％。前期（六日齢～三十六日齢で中物（約一・八㌧）として中抜き出荷する。全体の出荷羽数に占める小・中物の割合は約三分の一。残りは四十九～五十三日齢（約三・二㌧）で出荷している。

鶏舎はセミウインドレス鶏舎（開放鶏舎）で、ウインドレス鶏舎は九〇％。

日新殖産生産部の皆さんと伊達物産の斎藤購買部長（右上）

福島・日新殖産を訪ねて

ブロイラー
育成率が改善され、増体性も高い
増体スピードに合わせた管理が重要

同社は、ケンタッキーに向けに出荷している関係から、コップの増体性の良さを高く評価し、導入するひなの約四割はコップである。これまでは育成率などに若干の不満もあったようだが、コップ500Mxブロイラーに変わってからは、その評価を徐々に変えてきている。

〇八年十一月の日本コつもより多めに取り、温度と換気のバランスに気をつけ、ポックリの数を目安に管理」した結果、〇八年五月三日え付け、最終五〇・二日齢出荷のMxブロイラーは、え付け時からひなの餌食いは良く、育成率は九九・五％（購入ベース）、飼料要求率一・九〇三、大雛日増体六二・一㌘、坪産肉量一五三・七㌔、PS（プロイラー）――などの高成績を示したとした。

また、Mxブロイラーの特長について、中抜き前は、「舎内は混みあって、しかも高温下の状況であったが、餌食いは落ちなかった。脚弱もみられず、中抜き後の散らばりも容易だった。中抜き後に飼育スペースに余裕ができたため、扇風機を止めてみたところ、ポックリ死が発生したため、すぐに扇風機を再使用した。換気だけでなく、風の流れも必要と感じた」とし、中抜きから最終出荷までは、「中抜き以降、増体の伸びが堅調。数回の出荷ごとにスペースが広がり、さらに増体がみられた。三〇度Cを超える日もあったが、ポックリ死は二、三羽にとどまり、胸が焼けたような暑熱死はみられなかった」とコップより早くなった③飼育管理上、鶏の反応（暑がっているのか、寒がっているのか）が分かりやすい④飼育管理のミスが成績に影響するなど、ミスが許されない高成績が出る鶏種だ」とのこと。

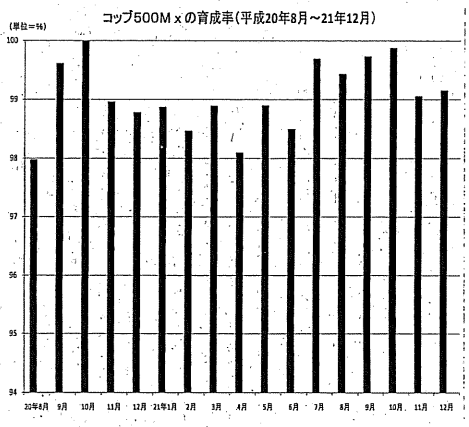
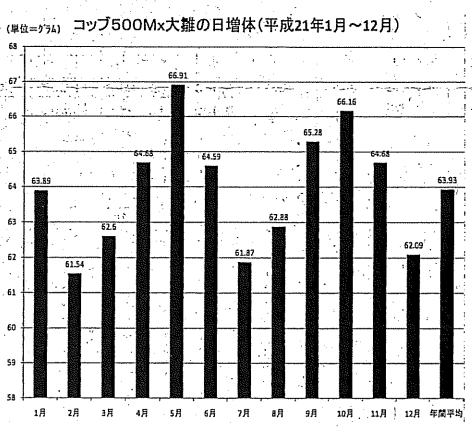
具体的には、「育成率は二％くらい良くなったのではないか」とし、餌食いと増体が良いだけに「換気不良にするとポックリが出るため、温度と換気のバランスが大事」だと強調した。

同社におけるMxブロイラーの〇八年八月～〇九年十二月までの育成率と、〇九年一月～十二月までの大雛の日増体（DG）推移をグラフに示したが、育成率は着実に向上し、大雛の日増体も年間平均で六三・九三㌘とこれまでのコップの成績を上回る非常に良い結果が出ている。

コップは夏場に強いとの定評がある反面、冬場が心配と指摘されていた。〇八年一～三月のコップと〇九年一～三月（Mxブロイラー）の成績を表にして比較すると、Mxブロイラーはいずれの項目でも優れた結果を示している。同社では今年の冬も昨年と同じような良い成績が出ているようで、「コップを増やしたいと思っているが、供給してもらえるひなが少ないのが悩み」とのこと。

（つづく）

冬場のコップブロイラー出荷成績の比較

出荷期間	08年1～3月	09年1～3月
鶏種	コップ	コップ500Mx
ロット数	32	17
飼育坪数	6,475.0	3,519
入雛羽数	460,195	240,605
羽／坪	71.07	68.38
平均日齢	44.9	44.3
平均体重	2,377	2,534
DG	53.0	57.3
飼料要求率	1,991	1,956
商品化率(注)	94.28	96.09
P. S.	250.7	281.3
坪重量	159.3	166.5
中抜き率	38.1	41.5
小物DG	40.5	41.5
中物DG	45.0	47.3
大物DG	57.1	62.8
PS＋坪重量	410.0	447.8

注）商品化率は処理場廃棄も含む実質ベースの育成率